



# ゆめ通信

## 第24期九州支部セミナー開催

2月9日（金）熊本市の三井ガーデンホテル熊本にて第24期九州支部セミナーを開催し、総勢105名の方々にご参加いただきました。冒頭、実取九州支部長は「4年ぶりということで多くの方に参加いただき大変嬉しく思う。優秀な生産者、獣医師の先生の話が聞ける貴重な機会なので、明日から自農場に活かせるようにしっかりと学んでいただきたい。」と挨拶されました。

講演の前に山本副理事長より石川県能登半島で起きた地震災害に関する報告があり、「1月5日に現地を視察したが、飼料タンクが倒れたり、浄化槽がひび割れたり、場所によっては豚舎自体が傾いたりなど甚大な被害を受けていた。一刻も早い復興を祈っている。8年前の熊本大地震で皆様も被害に見舞われ、復興には時間もお金もかかることは私よりもご承知のことと思う。私は日本養豚協会（JPPA）の副会長でもあり、この場を借りてJPPAで行っている養豚家向け義援金のご協力も助け合いの精神で是非とも願いたい。」と話されました。

引き続き山本副理事長より「勝ち残る養豚経営に向けて」と題してご講演をいただきました。講演内容は中部支部セミナーでの内容と同様ですので、詳細についてはゆめ通信131号（2024年1月1日発行）6ページ「中部支部セミナー開催」記事をご覧ください。その後、事務局より共同購入事業で取り扱っている新商品の紹介を行いました。

次に、水野慎太郎氏（有限会社みずの代表取締役）より「利益最大化の勘どころ～他力本願のすすめ～」と題してご講演頂きました。

### 【農場情報】

所在地：宮城県登米市

母豚数：600頭

品種：種豚“Topigs Norsvin”（GP導入）、デュロック（購入精液：（株）メンデルジャパン）

飼料：豚事協指定配合飼料「ゆめシリーズ」

稲作中心の農家だったご両親が昭和30年に母豚30頭の一貫経営を始めた。当初の経営状況は非常に厳しかったが、平成7年に母豚150頭一貫へ拡大し、自身が就農後、徐々に規模拡大を進めた。

平成18年に2農場で母豚430頭規模となり、平成29年に新農場を設立して現在の母豚600頭となった。

現在種豚“Topigs Norsvin”をGP導入して自家産のPSを生産しているが、母豚が丸くなる傾向があるためTDNを70まで下げた飼料で育成テストをしている。種豚“Topigs Norsvin”にはその方が良いと結論づけられれば、ゆめシリーズにもラインナップしてほしいと思っている。全頭AI種付けで、スポンジカテーテルから深部注入カテーテルに変えたことで成績が改善したため、継続して深部注入カテーテルを使用している。また、ミルクウィーンフィーダーを20豚房に1つの割合で設置している。うまく使用できな



図1 (有)みずの 伊勢山農場（平成29年新設）

いなどの声も聞くが、保温箱を設置して、その箱で飼育できる頭数であれば問題ないと思う（図2）。離乳舎では部屋全体を温める既存のガスヒーターから一部だけ温める“カーボンファイバーヒーター”に変更してみたところ、その方が東北の寒さの中でも子豚の生育は良好になった。

ヒーター自体は安価でも効果があり、設置して片付けをする手間はありますが、その分メンテナンスが自社でもできるので総合的に管理しやすいと感じている（図3）。出荷前には週1回の体測で300頭を選抜し、豚事協で販売しているクレヨン4色で体重別に色分けしている。色分けしたことで出荷のたびに行っていた体測回数を減らす事ができ、数字が消えても色だけで判断できるため間違いなく徹底できている（図4）。

現状の課題は次の4つ。1つは、餌箱周りのコンクリートがすり減ってしまっていること。管理上オ



図4 (有)みずの肥育舎 豚事協クレヨン活用例

ールスノコにしたかったが、スノコがすり減ってしまっていて交換する手間を考慮して一部をタタキにした。しかし、結局6年で給餌器の周辺がすり減ってしまった。対策となる資材を江南コンクリート(株)が開発中とのことなので、今後に期待したい。2つめは、昨年の夏は東北も非常に暑く繁殖成績を大幅に落としてしまったためクーリングパッドの設置を検討していること。3つめは、堆肥が年々さばけなくなっているため、ペレットマシンの導入を検討していること。そして最後に、以前は問題なかった臭気について年々難しい状況になっているので養豚経営を継続するためにどうするか思案している。

今回のテーマであるベンチマーキングという点では、正直に言うと自社の成績はすべて上位というわけではない。しかし、武田先生の指導や豚事協の取り組み、種豚“Topigs Norsvin”の導入などの効果もあり、四期連続で経常利益率が15%を超えている。私がベンチマーキング上で一番重視しているのは出荷体重と売上飼料比率。出荷体重は2023年1月に豚枝肉取引規格の改正があったことを受けて、ベンチマーキング全体の枝重の中央値もプラス2kgとなっているが、自社も2kg増加して2023年に目標だった平均枝重80.0kgを達成した。また売上飼料比率も50.2%とベンチマーキング上位10%と中央値の間で、なおかつ上位10%に近い位置におり、目標とする数値を達成できた。

今回講演タイトルとした“他力本願”だが、経営で心掛けているところをまとめた言葉と捉えてもらいたい。1つは“選択と集中”が重要であり、自分で



図2 (有)みずの分娩舎ミルクウィーンフィーダー



図3 (有)みずの離乳舎カーボンファイバーヒーター

きる事とできない事を把握して、ターゲットを絞ることが重要。2つ目に我々は“決して物乞いでは無く”、取引相手と価値連鎖するような行動が重要。例えば、ゆめシリーズを利用する事で、メーカーとの価格交渉は松村理事長にありがたくお任せしながらも、だからこそ豚事協に報いる事ができるように、可能な限りゆめシリーズを多く利用している、というような事が、お互いにウィンウィンの関係になると捉えている。3つ目に“視座を上げる”事が重要。すなわち虫の目、鳥の目、魚の目を使い分け、目の前ばかりにとらわれず様々な目線から自社を客観的に捉えることが大事。まさにそこでベンチマーキングの中央値と自社の数値を比較して、セルフチェックしながら振り返っている。とくに経営のメインエンジンとも言える粗利益、そしてその計算根拠としての飼料費、販売金額を見ることですぐに状況が分かるように分解して解析している(図5)。そのうえで重視しているのがSWOT分析。自社の強み弱みを内部環境と外部環境に分けて分析して現状を見定める(図6)。経済環境は常に大きく変化を続けている。例えば、なかなか変えづらい生産形態も、一貫経営から、企業ごとに青森で繁殖農場専業、宮城で子豚育成専業、茨城・千葉で肥育専業と分業するというのはどうか。利があるなら状況に合わせて大胆に検討する、というような柔軟な発想が必要ではないか。

このように、SWOT分析で自社の立ち位置を見定め、ベンチマーキング中央値と自社数値の比較をしながら現状を把握し、そこから必要となるだろう新しい取り組みを見つけ出していくという流れで毎年自社の経営を検討している。そうすれば個別の数値だけで判断すると見えない状況や、改善に必要な変化が生まれてこない状況も打開でき、継続できる形を見つけられるのではないかと思う(図7)。「図7は一部空白にしてあるので是非皆様で活用していただいて、埋めていただきたい。そして検討の結果、新しい取り組みに豚事協の“ゆめシリーズ”が記入される事を切に願う」と講演を締めさせていただきました。

最後に、武田浩輝氏(有限会社アークベテリナリーサービス代表取締役・獣医師)より「(有)みずののコンサルティングとJASVベンチマーキングについて」と題してご講演頂きました。

JASVベンチマーキングはJASV設立以降一番大切な事業として農場の皆様の協力を得て続けてきている。過去10年のJASVベンチマーキングデータを見ると、様々な指標で上位農場と下位農場の差は広がっており、とくに1母豚当たりの年間出荷枝肉重量は2022年では上位10%が2325kg、下位10%が1404kgとその差921kg、枝肉78kg換算すると出荷頭数換算で約年12頭も広がっている。1700kgが目標とされていた時代からすると隔世の感があるが、夢とされた年間出荷枝重2トンが多くの農場で達成されている現状があり、多産系母豚の導入など改善は進んでいる。日本全体の母豚数は年々減っていくなかで、1母豚当たりの出荷頭数は2021年に20頭を超えた。その中で見えてくる事は、1農場当りの母豚規模が飛躍的に拡大したことで、養豚場での仕事も大きく変化してきており、個人の経験からくる“カン”よりも科学的なデータを活用する事が求められる状況になっている。なぜ農場データを取るのかといえば、それは各々の農場の問題点を見出すためであると考えている。農場の目指すべき方向性や目標を確立して指標をもつためだ。しかし一方で、一定数の農場の現実としては、記録を付けられない、記録を付けているが集計は出来ない、継続ができない、記録・集計はできているが活用ができないなど、様々な段階で利用価値を見出せずにいる。このような状況では農場の問題点が客観的に評価できない。個々の農場のデータ活用のためにも他農場のデータと比較できるベンチマーキングは有用で、他農場との差を数値でとらえる事で業界の中での自農場の位置づけや優良農場との差異を知ることができる。数値で比較することで、弱点がより分かりやすく、目標が立てやすくなる。また、自農場の成績を従業員と共有することで、彼らの意欲向上に繋がる。私が実際に関わっている農場ではJASVベンチマーキング指標に合わせて特別ボーナスを支給している取り組みもある。

ベンチマーキングデータを見ると、利益を確保している農場ほど生産性を示す指標が優れ、飼料要求率が低いことが見えてくる。(有)みずのでの取り組みではJASVベンチマーキングで常に上位である東海地区の数値を目標に組み立ててきている。これらの目標をクリアするために、2017年より私のコンサルテーションを

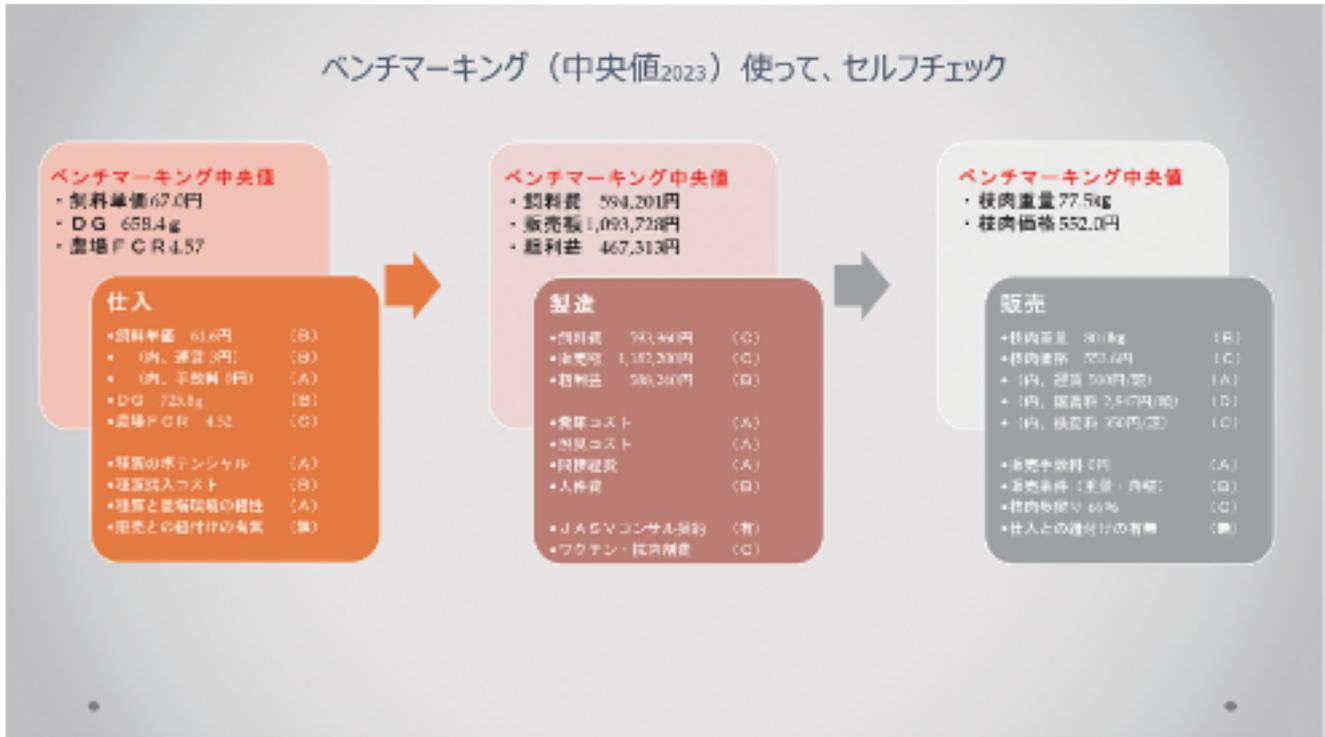


図5 ベンチマーキング中央値でのセルフチェック



図6 (有)みずのでのSWOT分析

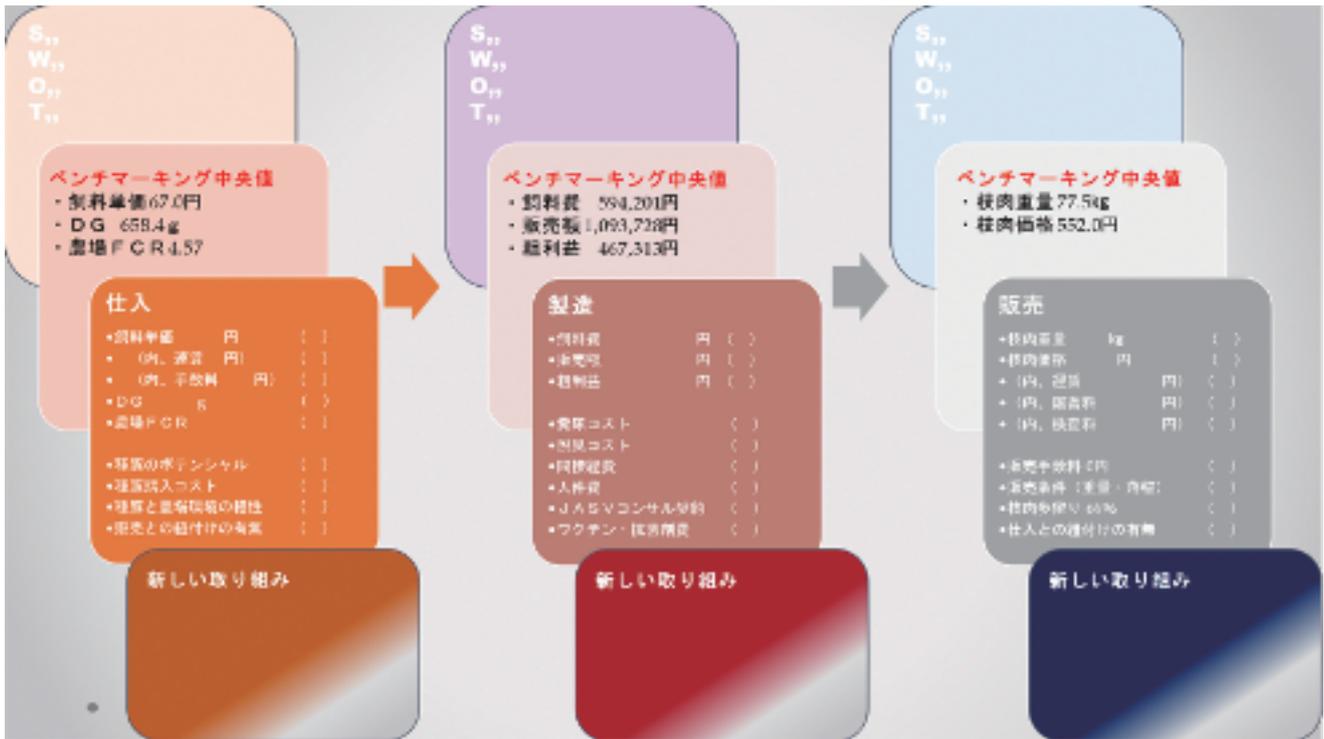


図7 (有)みずのでのSWOT分析から始まる経営分析

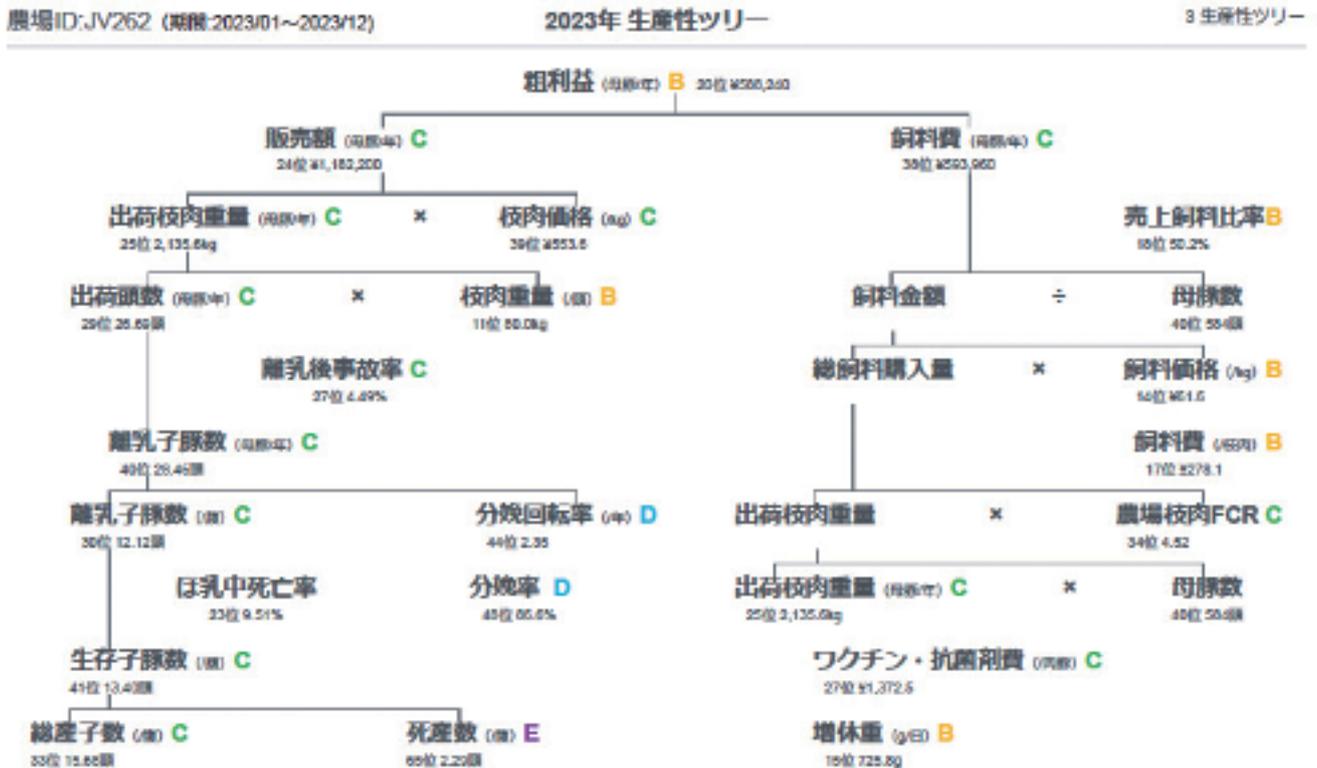


図8 (有)みずのJASVベンチマーキング2023年生産性ツリー

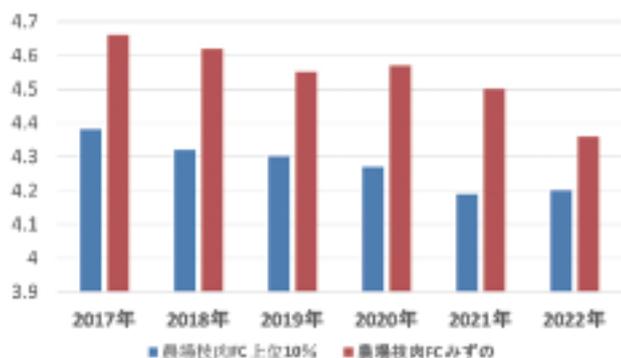


図9 (有みずの農場枝肉FCの推移)



図10 (有みずの出荷頭数の推移)

開始し、豚事協への参加、種豚“Topigs Norsvin”導入や出荷先の紹介から着手した。次にPRRSの陰性化へのアプローチを行い、伊勢山農場新設を2020年12月に完了した。さらに解決すべき事として、母豚のボディコンディションを意識した管理に推移させていく中で、多くの農場が種豚“Topigs Norsvin”で好成績を上げている東海地区のデータと比較していくことが適切な目標設定のために必要と判断した。加えて2021年には「ポーク165」として生後165日以内の出荷を目指し、かつ飼料要求率低減に向けて改善に取り組んだ(図9)。

種豚“Topigs Norsvin”の生産が軌道に乗り、総産子数・生存産子数・離乳頭数は目標だった東海地区の数値に並び、1母豚当たりの年間出荷頭数は2022年に大幅に目標を超えることができた(図10)。残る課題への指導の内容としては更新豚のボディコンディション管理方法を、リーンメーターを用いた背脂肪厚データによる管理から種豚“Topigs Norsvin”のマニュアルに合わせた体重を重視した管理に変更したことである。具体的には初回種付けの目標体重に忠実に育成する事で、体重と背脂肪厚の両方をそろえる事を重視した。しかし、実際にマニュアル通りに飼料給与すると過肥になる傾向が続き、飼料のTDNを下げる工夫をしたが過肥傾向は改善せず、育成管理

の難しさに直面した。また妊娠期の管理としては、従来は、経産豚で離乳後に体重を落とした個体は、妊娠初期に飼料の給与量を増やしてボディコンディションを回復させ、妊娠中期ではボディコンディションスコア3(P2点計測で背脂肪17~18mm)を維持し、さらに妊娠後期では胎児の成長と乳房の発達が最も盛んになる時期で分娩前に母豚が体内に貯蔵した栄養を動員しないように管理で0.5kg/日の給餌量増を行っていた。しかし、それ以上に大切なのは授乳期の管理で、近年の報告によると授乳期での飼料摂取量が夏場に減ってしまう事でボディコンディションが悪化し、次の分娩サイクルの生時体重・離乳頭数などの繁殖成績が低下する事が分かってきている。実際に(有みず)のでも同じ傾向が見て取れる。しかしこれらの母豚の体重減少を妊娠期の管理だけで改善するのは非常に難しい。妊娠後期の過剰な増飼いで母豚を太らせた場合には、分娩時の死産や初乳量の低下、授乳期の飼料摂取量減退につながるリスクが高まってしまふ事も報告されている。よって妊娠後期に増し飼いをしないでよい管理を推奨している。

昨年の夏は、あれほどの猛暑でも、予想していたよりも母豚の死亡が少なかった。(有みず)のでもそうだったが、ボディコンディションが適正に維持されていた種豚“Topigs Norsvin”の母豚は比較的暑さに強く、死亡した母豚はいずれも過肥傾向だった。

また(有みず)のでは夏場の種付けは順調で、受胎率の低下もあまりなかった。これらの事実からも多産系母豚は在来の種豚と比較して背脂肪が薄く、夏場の影響を受けにくかったと考えられる。いずれにしても夏場においては特にボディコンディション管理が重要という事が言える。

講演の最後にはJASVベンチマーキングの特長や参加方法の説明がなされました。

最後に賛助会員によるプレゼンテーションの時間を設け、6社が最新情報を提供しました。(株)メンデルジャパン、(株)YE DEGITAL、明正工業(株)、江南コンクリート(株)、富士フィルムVETシステムズ(株)、丸紅セーフネット(株)

セミナー後は同会場で懇親会が行われ、4年ぶりとなる会合だったためか、予定時間を超えても非常に活発な意見交換が続き、盛況のうちに終了しました。(加藤)

# 「矢原の部屋」 Vol. 3

専務理事 矢原 芳博

みなさんこんにちは、皆様のお悩み相談窓口「矢原の部屋」でございます。山本副理事長の一言からスタートした「矢原の部屋」ですが、お陰様で色々ご相談のお電話を頂いておまして、なにがしかのお役に立てるよう頑張っております。今回は、お隣の韓国でのアフリカ豚熱の状況などについてお知らせしていこうと思います。

直近では、栃木県で豚熱の国内90例目の発生が報告されており、バイオセキュリティのさらなる強化が求められております。

## 韓国でアフリカ豚熱陽性の野生イノシシが広がっています。

皆さんご存じとは思いますが、現在日本で発生している豚熱とはまた別な病気であるアフリカ豚熱（症状が似ているので似たような名前が付けられていますが、豚熱とは全く違うウイルスです。以後ASFと略します。）は、名前の通りアフリカの一部の地域の豚やイノシシに風土病として発生していた病気ですが、時折、大陸をまたぐほどの長距離を飛んで、ヨーロッパなどで散発していました。そのASFが世界的な脅威となり始めたのは2007年で、アフリカからコーカサス地方のジョージアへ突如ジャンプし、その後西方向のヨーロッパ、東方向のロシアへ瞬く間に広がり、2018年には、ついに中国でアジア初の発生を見た後は、アジアのほぼ全地域に行き渡ってしまいました。現在東アジアでASFの発生を免れているのは台湾と日本の2か国のみです。

日本のお隣の韓国では、2019年に北西部の農場で養豚場での初の発生が見られ、その後北朝鮮国境沿いを中心に40例の発生が見られています。韓国国内では必死の防疫体制がとられており、養豚場での発生は北朝鮮国境付近でとどまっておりますが、ASF陽性の野生イノシシの広がりには歯止めがかけられず、ついに朝鮮半島南部の釜山まで到達してしまいました。

## 釜山でのASF陽性野生イノシシが日本のリスクを高める理由

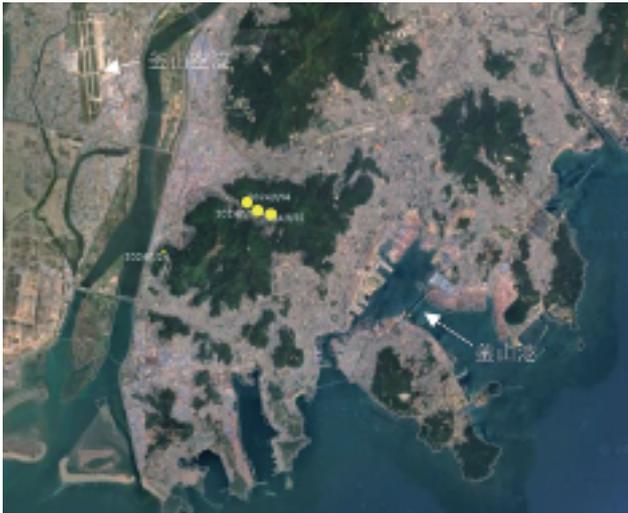
新型コロナウイルスが落ち着いた後は、日本と韓国間の人の行き来はコロナ前の水準に戻りつつありますので、韓国国内でASFが発生しているとなれば、すでに韓国から日本にASFウイルスが上陸するリスクは高い状態が維持されているのは事実です。しかし、今回陽性イノシシが見つかった場所は、釜山から日本の港へ向かうフェリーふ頭のすぐそばだったのです。多くの日韓の方々が、例えば関釜フェリーに乗って両国を行き来しています。ASFウイルスは環境中や畜肉中での生存期間が非常に長く、このため、畜産物や人（物理的に靴底などにウイルスをくっつけて持ち込まれる）を介したウイルスの持ち込みが危惧されており、日常的に両国間を行き来するフェリー乗り場の近くでの陽性野生イノシシの発見は、業界に大きなインパクトを与えています。

ASFは、現時点では有効なワクチンは開発されていないため、日本に上陸すると豚熱（CSF）以上の被害をもたらすことは間違いありません。

農水省もこの状況に大きな危機感を感じて、空港に加え、韓国からフェリーが到着する港においても、検疫を強化するとともに、人々が日韓を行き来する際に、畜産物を持ち込まないこと、手足や持ち物の消毒をしっかりと行う事を啓蒙しています。

例えば韓国国内で履いていた靴底の消毒はしっかりとしなければなりません。あるいは韓国（だけでなくASFが発生している国ならどこでも）でプレーした時のゴルフシューズなどは特に危険であり、それをそのまま日本のゴルフコースで履いてしまうと、韓国のイノシシと日本のイノシシが鼻と鼻を合わせているのと大差ない状況が再現されてしまう可能性があります。ゴルフクラブもシューズも徹底的に消毒する必要があります。我々養豚業界にたずさわる人間もこのリスクをしっかりと把握して、日本にASFを持ち込まない、持ち込ませないために、業界外の人も含めて、この事を伝えていかなければなりません。このような話はこの業界の人間にはすぐに理解できますが、それ以外の人々にはなかなかイメージできないことなので、自分の周りの人々には、そのことをお伝えしてほしいと思います。

以上、今回はASFに関する話題を取り上げました。疾病に関する話題については、世界の状況を見ながら適宜皆様にお伝えしていきたいと思っております。



釜山港、釜山空港の衛生写真（黄色い点が2024年になってASF陽性イノシシが発見された場所）  
（提供（有）あかばね動物クリニック伊藤貢先生）



釜山と日本の位置関係（釜山⇔下関の直線距離は200km足らずで、対馬までの直線距離は50km。）  
（提供（有）あかばね動物クリニック 伊藤貢先生）

### ところで話題は変わりました

前回のゆめ通信でもお知らせしておりますが、豚事協事務局には、生菌剤や消臭剤など、農場ごとに効果のばらつきが予想される資材の紹介が多数あります。これらの製品については、いきなり共同購入の品目に加えるわけにはいきませんが、農場によっては効果を現す可能性があります。皆様の農場内で抱える課題あるいは悩みについて、矢原の部屋にご連絡いただければ、そのような資材とのマッチングができるかもしれません。

つい最近も電解水を応用した消毒剤の紹介があり、その商材が消臭効果もあるという話でしたが、養豚場での程度の効果を発揮するかデータが無いという話でした。我こそはという方が居られましたら、農場で試験

**MAFF 農林水産省**

**アフリカ豚熱**

そこまできています  
発生を未然に防ぐことが日本の豚豚を守るために極めて重要です。

日本から50kmしか離れていない釜山で観測中！

2024

2021

すぐ農場の衛生対策を再点検！

- 致死率はほぼ100%
- 中国で発生による死亡・観測分より豚の飼育頭数が4割減少
- 周辺農場も感染分の可能性

有効な治療やワクチンはない

農水省が注意喚起のために作成したパンフレット①

**MAFF 農林水産省**

**養豚場の重点対策**

- 1 野生動物対策**  
農場を囲う柵を設置するとともに、破損などが無いが定期的に点検。  
農場周囲を含め敷地内の草刈りや木の剪定を行い、野生動物が隠れる場所を作らない。  
死亡家畜は野生動物を誘引しないよう適切に保管。
- 2 農場内や進入車両の消毒**  
畜舎周囲・農場外周部に定期的に石灰を散布。  
車両の洗浄・消毒も忘れず、畜体、タイヤ周りや泥の汚れをしっかりと落とす。
- 3 更衣・履き替えの徹底**  
洗浄・消毒された専用の衣類や靴を履く。  
靴は履き替える徹底し、使用後は洗浄してから消毒し、消毒後は定期的、または汚れた履き替え。

豚肉・豚肉製品を絶対に豚に与えない・捨てない！  
従業員にも同様・徹底を！

農水省が注意喚起のために作成したパンフレット②  
養豚場ができる対策はウイルスを農場内に持ち込まないバイオセキュリティの強化！

を行うこともできますのでお知らせください。業界に埋もれているお宝（かも知れない資材）を我々の手で世に出してやるのも面白い取り組みだと考えております。様々な分野の業者さんと組合員の養豚場とのマッチングも我々の今後の重要な役目だと感じております。

### おわりに

という事で、今回も現在思っている事を思うままに書かせていただきました。特にASFに関しては、現在も清浄化できていない豚熱（CSF）を抱えた中で、それ以上に厄介なASFを日本に侵入させるわけには絶対に行きません。ASFウイルス持ち込みの可能性は、養豚関係者だけでなく、ASFが発生している国々と日本を行き来するすべての人々に起こりうるリスクですので、身の回りの方々への畜産物の持ち込みや靴等（ゴルフ用品も含む）の消毒について、繰り返し説明していきましょう。

## 日本養豚事業協同組合も国際養鶏養豚総合展2024 (IPPS2024) に参加いたします！

出展ブースは中央奥、メンデルジャパン株式会社様の隣となっております。  
 (マップはこちら) [https://ipps.gr.jp/pdf/IPPS2024\\_MAP\\_240208.pdf](https://ipps.gr.jp/pdf/IPPS2024_MAP_240208.pdf)



事務局一同、皆様のご来場をお待ちしております。

なお、今回より来場前に事前ウェブ手続きが必要となっておりますので、ホームページをご確認ください。  
 (申し込みはこちら) <https://www.tenjikai-uketsuke.com/ecscripts/reqapp.dll>



### INTERNATIONAL POULTRY & PIG SHOW 国際養鶏養豚総合展2024

会期: 2024. 4/24 [水]・25 [木]・26 [金]  
 会場: ポートメッセなごや 第1展示館

主催 | 空経社団法人 中央畜産会



## 養豚業界で働く女性集まれ！ 若夢女子会 2024年6月開催

2022年、2023年と2年続けて東京で開催され多くの組合員の皆様に多くご参加いただき好評いただいた、「若者が夢を語る会」を今年は養豚業界で働く女性に限定した会合、その名も「若夢女子会」の開催が決定いたしました。

前回までと同様、座長は日本養豚事業協同組合・山本副理事長のもと豚事協組合員に限らず、養豚農家、養豚企業で働く方であればどなたでも参加できるオープンな場として開催いたします。また、豚事協女性部との共同開催として養豚現場で働く女性の関心に特化した講義も展開予定です。詳しいご案内は後ほどお伝えいたします。是非とも皆様お誘いあわせの上奮ってご参加ください。

### 記

日時：2024年6月28日（金）セミナー 14時～17時30分、ディナーパーティー 18時より

6月29日（土）セミナー、ワークショップ 9時～12時

場所：6/28セミナー、パーティー・ホテルモントレ銀座

6/29セミナー、ワークショップ・銀座フェニックスプラザ 予定

申込：4月1日より豚事協HPにて申込案内開始

以上

## 豚事協の第24期行事

### 理事会

第115回	令和5年6月15日（木）（東京）
第116回	令和5年7月28日（金）（東京）
第117回	令和5年7月28日（金）（東京）
第118回	令和5年9月21日（木）（東京）
第119回	令和5年12月21日（木）（東京）
第120回	令和6年3月14日（木）（東京）

### 豚事協セミナー

北海道支部セミナー	令和5年9月15日（金）（札幌）
東北支部セミナー	令和5年10月6日（金）（仙台）
関東支部セミナー	令和5年11月2日（木）（東京）
中部支部セミナー	令和5年12月1日（金）（名古屋）
九州支部セミナー	令和6年2月9日（金）（熊本）
沖縄支部セミナー	令和6年3月1日（金）（那覇）
関西中四国支部セミナー	令和6年3月22日（金）（松山）

### 女性部

第16回女性部セミナー	令和6年 日程未定
-------------	-----------

### その他

海外視察研修	令和5年6月6日～12日（アメリカ）
国際養鶏養豚総合展2024	令和6年4月24日～26日（ポートメッセなごや）
※今回も国際養鶏養豚総合展（IPPS2024）に出展いたします。	

※青字は令和6年3月1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。

### 編集後記

\*\*\*

能登半島地震に被災された皆様、心よりお見舞い申し上げます。2月中旬現在もお断水が続く地区にお住まいの方もいらっしゃる状況に、何もできないことに胸が痛むばかりです。寒い元旦より過酷な環境だと思います。ようやく冬が終わります。暖かさをこれほど待ち望むこともなかなかありません。状況が一刻も早く改善されることを祈ってやみません。

豚事協として久々の開催を続けてきた支部セミナーも北海道から始まりこの3月にて全ての地区で開催されたこととなります。ご多忙の中多くの方にご参加いただき感謝いたします。4月には2年ぶりの開催となる国際養鶏養豚総合展にも出展し、皆様にお会いする機会が多くなり嬉しいばかりです。今年も海外研修が企画できそうな流れでもあります。豚事協としては指定配合飼料“ゆめシリーズ”のリニューアルや新規共同購入商品や新規賛助会員の紹介など新たな取り組みで皆様にさらにお役にたてるよう進めていることをさらに強力にお伝えしていきたいと思っております。豚事協として、ドンドン動いてこの激動の時代を皆様とともに走っていければと思っています！そう思って事務所から東京駅まで全力で走ってみたら見事に走れず、日頃の運動不足を実感する毎日です。まずは基礎トレーニングからやっています。（加）